体育科学習指導案

令和5年6月2日(金) 学習指導Ⅲ 第3学年3組(体育館) 指導者 石塚 祐子
星 亮太郎

【単元】フロアーボール(E ゲーム イ ネット型ゲーム)

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	<ul style="list-style-type: none"> フロアーボールの行い方についての知識や, 味方にボールをはじいてパスをしたり, 相手コートにボールを打って返球したりする技能, ボールの方向に体を向けたり, ボールを操作しやすい位置に移動したりする技能 	<ul style="list-style-type: none"> フロアーボールにおける運動の課題の解決策を見付ける力, 簡単な作戦を選ぶ力, 自分の考えを仲間に伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> フロアーボールに進んで取り組むとともに, 規則を守り, 誰とでも仲よく運動したり, 仲間の考えを認めたりする態度
子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> ボンバーゲームにおいて, ボールの落下地点に移動し, ボールを捕球することができる。 体づくり運動において, ボールを操作しやすい位置に移動して, 転がってきたボールをはじいてパスをつなぐことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ボンバーゲームにおいて, ボールの落下地点でボールを捕る動きのポイントを見付けることや相手のいない場所をねらってボールを投げるための簡単な作戦を選ぶことができる。 ボンバーゲームにおいて, 2人で連携して守ることについて, 自分が考えた解決策を伝えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ボンバーゲームの規則を守り, 仲間と励まし合って, ボンバーゲームに進んで取り組める。 仲間のよい動きを認めたり, 仲間の考えを受け入れたりすることが難しい子どもがいる。
価値	<ul style="list-style-type: none"> フロアーボールは, 仲間と連携しながら, ボールをはじいてパスをつなぎ, 相手コートに返球して得点することに面白さがある。また, ネットを挟んで相手と対峙し, 相手が打ったボールのコースに入って味方にパスをしたり, ボールを操作しやすい位置に移動したりしながら攻防を組み立て, 相手とラリーを続けるというネット型の特性に応じた楽しさを味わうことができる。本単元では, 3対3でゲームをし, 3人が1回ずつボールに触れて相手コートへ返球することができた際に, 得点が入るルールとする。ゲームをする中で, レシーブ, パス, アタックの3段攻撃が生まれ, 役割が明確となることで, それぞれの動きのポイントを見付けやすくなる。また, ネットを地上から50cmの高さで張り, その下にボールを転がすようにする。そのため, 攻防する中で, ボールの軌道を捉えることができ, ボールをはじいたり, 味方へ体の向きを素早く変えてボールをはじいてパスをしたりするなどのボール操作が容易となり, 繰り返し行えることで技能の習得につながる。また, ボール操作者と非操作者の位置に着目し, ボール操作者と離れた場所でパスを受けたりボールを正面で受けられる位置に移動する動きを身に付けることで, 仲間と連携してパスをつないだことで得点に結び付き, 喜びをさらに実感できるようになる。 技能的に易しい「ボールを転がす」という動きは, ボールの軌道を捉えることができ, ボールの方向へ体を向けたり, ボールを操作しやすい位置に移動したりすることの技能を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> パスをつなぎ, 得点するためには, ボール操作者と味方が連携することが欠かせない。そのため, パスをつなぐことについて必要感をもって話し合うことになり, フロアーボールの課題の解決策について考えたことを友達に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> フロアーボール大会に向けて, 単元を通して同チームでタスクゲームやメインゲームをすることにより, 所属意識が高まり, 仲間の考えを認め, 誰とでも仲よく学習しようとする態度を育てることができる。
見方・考え方	フロアーボールにおける体の向きを変えて味方にパスをする動きや, ボールを操作しやすい位置に移動してボールを受ける動きに着目し, プレイをしたりプレイを見て考えたことを伝えたり, 目標とする動きから動きのポイントを見いだしたりする。		
今後の学習	4年「プレルボール」で, ボール弾ませてパスをしたり, ボールを地面に打ち付けて相手コートに返球したりするという基本的なボール操作とボールを操作しやすい位置に移動するといった動きによって攻防する学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	仲間と協力し、動きのポイントを見つけて、ボールを操作しやすい位置に移動して、パスをつないだり、アタックをしたりして、フロアーボールを楽しむことができる。		
評価 規準	(①技・知) フロアーボールの行い方を理解し、パスをする方向に体を向けてパスしたり、ボールの方向に体を向けて受けたパスをつないだり、相手コートに返球したり、ボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。 (②思・判・表) レシーブやパス、アタックの動きのポイントを見付けたり、作戦を選んだり、チームの課題の解決のために考えたことを友達に伝えたりしている。 (③主体的態度) 規則を守り、互いに協力したり、仲間の動きを認めたりして、誰とでも仲よくフロアーボールをしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しのゲームを行い、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて フロアーボール大会に向けて、レシーブやパス、アタックの動きのポイントを見付け、友達と協力しながら、フロアーボールを楽しもう	○フロアーボールで取り組んでいく動きや学び方の見通しがもてるように、「フロアーボールの楽しさ」「できるようになりたい動き」の視点を提示する。
追究する	1	○アタックの動きのポイントを見つけて、ゲームに取り組む。	○アタックの動きのポイントに気付けるように、「足の向き」「腕の振り」の視点を提示する。
	1	○レシーブの動きのポイントを見つけて、ゲームに取り組む。	○レシーブの動きのポイントに気付けるように、「目線」「構え」の視点を提示する。
	1	○パスの動きのポイントを見つけて、ゲームに取り組む。	○パスの動きのポイントに気付けるように、「体の向き」の視点を提示する。
	1	○パスを受ける動きのポイントを見つけて、ゲームに取り組む。 (本時)	○パスを受ける動きのポイントに気付けるように、「味方の体の向き」の視点を提示する。
	1	○アタックが打ちやすい場所のポイントを見つけて、ゲームに取り組む。	○アタックが打ちやすい場所のポイントに気付けるように、「相手コートとの距離」の視点を提示する。
	1	○チームで作戦を選び試行し、ゲームをする。	○簡単な作戦を選ぶことができるように、3人の位置を示した複数の作戦を提示する。
まとめる	1	○「3の3フロアーボール大会」を行い、互いの頑張りを認め合って学習のまとめをする。	○学習の成果を実感できるように、「できるようになった動き」「自分や友達の頑張り」「フロアーボールの楽しさ」という振り返りの視点を提示する。
			評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇試しのフロアーボールに取り組み、アタックをして相手コートに返球する、パスをつなげて得点するなど、できるようになりたいことやフロアーボールの楽しさを記述している。 <学習プリント③> ◇打つ手と反対の足を前に出し、ねらう方向へ足を向ける、腕を大きく速く振って、ボールを打つ動きのポイントを記述している。 <学習プリント②> ◇転がってくるボールの正面に移動して、膝を曲げて、両手でボールを捕る動きのポイントを記述している。 <学習プリント②> ◇パスをする方向に体を向けてパスをしている。 <行動①> ◇ボール操作者に体を向けている。 <行動①> ◇相手コートに近い位置から相手コートにボールを転がしている。 <行動①> ◇簡単な作戦を選んでいる。 <学習プリント②> ◇フロアーボールにおける自分や友達の動きのよさや頑張り、フロアーボールの楽しさを記述している。 <学習プリント③>

本時の学習（5／8時間目）

ねらい 味方にパスがつかないという課題を解決するために考えた解決策を基に、繰り返し練習する活動を通して、味方の方向に体を向けて、パスを受けている。

評価項目 ボール操作者に体を向けている。

<行動①>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>・味方がレシーブをしたけど、パスがつかないな。ボールに触っていない人は、どのように動いたらよいのだろう。（課題意識）</p>	<p>○前時の課題となっていた姿から本時の課題を見いだせるように、前時に撮影したボール非操作者がボール操作者に体を向けていないためパスがつかない様子の動画を提示しボール非操作者の動きについて問いかける。</p> <p>○ボール非操作者のパスを受ける動きについて考え、課題を解決するという見通しをもてるように、本時でできるようにしたいことを問いかける。</p>
<p>めあて：ボールに触っていない人は、どのようにパス受けたらよいのだろう</p>	
<p>2 味方からパスを受ける動きのポイントを見付ける。</p> <p>・前の動画だと、ボールに触っていない味方が相手コートの方を向いていたけど、今回の動画は、ボールをはじいている味方の方に体を向けていたよ。</p> <p>・3人でパスをつなぐためには、ボールをはじいている味方に体を向けて構えているとよさそうだな。</p> <p>3 見付けた動きのポイントを基に、チーム内で練習をする。</p> <p>・ボールをはじいている味方に体を向けたけど、味方からうまくパスがもらえなかったな。観察役の友達が、ボールが転がってくるコースに移動していないから、ボールをはじいている人を見て、ボールが転がってくるコースに移動するとよいよと言ってくれたな。</p> <p>・パスをする味方を見て、ボールが転がってくるコースに移動するとよいよと友達に伝えたら、パスがつながりやすくなっていったよ。</p> <p>4 3対3のメインゲームを行う。</p> <p>・パスをつなぐためには、ボールをはじいている味方に体を向けて、転がってくるコースに移動することが大切だな。これを生かしたら、パスがつながりやすくなったよ。（課題を解決した意識）</p> <p>5 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>・友達のボールをはじいている味方に体を向けて、ボールが転がってくるコースに移動するというアドバイスのおかげで、パスがつながるようになって楽しかった。</p>	<p>○ボール操作者に体を向けて、パスを受ける動きのポイントに気付けるように、目標とする動きの動画を視聴する際に「味方の体の向き」という視点を提示し、ボール操作者と非操作者の体の向きを問いかける。</p> <p>○見付けた動きのポイントを実際の動きと関連付けられるように、コート上でボール非操作者がボール操作者の方向に体を向けてパスを受ける動きを例示する。</p> <p>○ボール操作者に体を向けてパスを受けるという動きのできばえを判断できるように、教師が撮影した動画を用いて、取り組んだ動きを見付けた動きのポイントに照らして評価するよう促し、取り組んだ動きのできばえを問いかける。</p> <p>○ボール操作者に体を向けてパスを受けることについての解決策を得られるように、チーム内で、観察する役割を設定し、ボール非操作者の体の向きについて伝えるよう促す。</p> <p>○ボール操作者に体を向けてパスを受けていることを自覚できるように、常にボール操作者に体を向けていたり、ボール操作者に体を向けて移動するための解決策を味方に伝えたりしている子どもを称賛する。</p> <p>○パスがつながりやすくなったことを実感できるように、本時「楽しかったこととその理由」の視点を提示し、学習プリントに記述するよう促す。</p>